



## 第3回 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」総会 結果概要

【日 時】 2023年5月17日（木） 10:00～11:07

【場 所】 オンライン会議（ZOOMウェビナー）

【参加者】 会 員： 中核機関、参画機関及び協力機関（別紙の65名）  
来 賓： 文部科学省 研究振興局 参事官（情報担当）付 学術基盤整備室 藤澤室長  
ほか（別紙の4名）

### 【概 要】

#### ○ 開会挨拶

- 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 喜連川優 機構長より、関係者への謝辞とともに、Chat GPTの実用化・発展など統計数理の人材像を取り巻く環境の劇的な変化が進む中、大学統計教員育成研修の実施や参画機関等の活動を通じた統計エキスパート育成の意義や継続的な推進の重要性等について挨拶

#### ○ 来賓挨拶

- 文部科学省 研究振興局学術整備基盤室 藤澤 亘 室長より、社会経済の変化に対応した統計エキスパート人材育成の好循環・エコシステム構築は重要なプロジェクトであり、コンソーシアムの活動が各参画機関に浸透し、プロジェクトが着実に順調に推進されていると認識する一方で、データサイエンス系学部・学科の新設が進み、統計教員の不足が当面は続くものと想定されることから、コンソーシアムの取組の持続的・発展的な推進を期待するとともに、文部科学省としても本プロジェクトが着実に実施されるよう支援することなどについて挨拶

#### ○ 議 事

- 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 椿広計 所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、会員からの異議や修正意見等は示されなかった。
  - コンソーシアムの令和4年度（2022年度）活動報告について
  - コンソーシアムの令和5年度（2023年度）事業計画について
  - 大学統計教員育成研修について
  - 育成研修修了者に対する支援方策について
  - 今後の運営委員会の体制について
- この審議結果を受けて、「令和4年度（2022年度）成果報告書」の作成を進め、文部科学省に提出するとともに、令和5年度（2023年度）事業計画に沿って、第1期研修・第2期研修の実施と第3期研修の準備、研修修了者に対する支援など、コンソーシアムの活動を進めることとなった。関連して、資料6のとおりコンソーシアム規約の改正が承認されるとともに、資料7のとおり運営委員会の体制強化を図ることとなった。

● 主な質疑応答

- ・ 第3期大学統計教員育成研修への参加推薦に当たって、育成対象者への「研修期間中の支援」も提出資料として新たに求める予定との説明であったが、この資料は支援方針的な内容で足りるのか、エビデンスに基づく具体的な支援方策が求められるのか。
  - 当該資料は、育成対象者個々の通常授業負担も勘案した研修実施内容の検討に活用することを想定しているものである。このため、任意の様式により、育成対象者の通常授業負担や、その軽減方針等を記載していただきたい。また、育成対象者の参画機関における活躍の場についても記載してもらえるとよい。なお、選考の際に、この資料内容によって不利となるようなことはない。
  - 本プロジェクトでは、代替教員の雇用による育成対象者の授業負担の軽減や、通常業務の効率化に向けた機器の整備など、研修に専念できる環境整備を目的とした委託費も配分していることから、この委託費の活用も含め、参画機関による特性等も勘案した支援方策を検討いただきたい。
- ・ 関連して、第1期・第2期研修育成対象者の授業負担の実状や、研修に支障が出る授業数を可能な範囲で教えてほしい。
  - 育成対象者ごとに、区々となっているのが実状であり、全く教育経験のない者もいる一方で、6コマ、9コマを担当している者もいる。育成対象者ごとの教育経験によって一概には言えないが、半年で4コマを超える授業を担当すると、研修の実施に支障が生じるものと考えている。初めて授業を担当する育成対象者にとっては、3コマでも大きな負担となる。
  - 第3期研修参加推薦へのご協力・ご尽力をお願いするとともに、派遣の際には、育成対象者の負担軽減にも配慮した支援策を検討いただきたい。
- ・ 研修修了者に対する「客員助教」、「客員准教授」の称号付与については、一定の付与期間が定まっているのか、更新も可能なのか。また、称号を付与されることによる義務等は生じるのか。
  - 称号の付与については、「必要な期間」とする方向で、今後、詳細に検討したい。称号付与による義務等は特に生じないものと考えているが、年度ごとに更新するに当たり、研究業績、履歴書等の必要資料の提出は必要になるものと考えている。
  - 研修修了者に「客員助教」や「客員准教授」の称号を付与することは、修了者のキャリアアップにも繋がるとともに、中核機関が整備した本プロジェクトの資産を活用する前提ともなる。

(以 上)

※文責：コンソーシアム事務局

## 別紙

### 第3回統計エキスパート人材育成コンソーシアム総会 参加会員等一覧

2023年5月17日

#### 【参画機関】

茨城大学	大学院農学研究科	教授	木下 嗣基
	〃	准教授	庄山 紀久子
大阪大学	大学院基礎工学研究科	教授	狩野 裕
岡山大学	AI・数理データサイエンスセンター	特任助教	姜 佳明
九州大学	マス・フォア・インダストリ研究所	教授	廣瀬 慧
京都女子大学	データサイエンス学部	学部長・教授	栗原 考次
	研究企画課	課長	中野 涼子
	〃	課員	宗像 美香
京都大学	データ科学イノベーション教育研究センター	教授	原 尚幸
		特定職員	寺川 雅
	〃	特定講師	岡本 雅子
群馬大学	情報学部	副学部長・教授	杉山 学
	食健康科学教育研究センター	准教授	長井 万恵
	研究推進部産学連携推進課	副課長	六本木 健司
慶応義塾大学	大学院健康マネジメント研究科	教授	山本 渉
	看護医療学部担当	課長	竹内 連
滋賀大学	データサイエンス学部	准教授	姫野 哲人

順天堂大学	大学院医学研究科医科学専攻 医科学コースデータサイエンス 学位プログラム	データサイエンス学位 プログラム長・教授	青木 茂樹
	教務課大学院担当	課員	矢野目 大地
上智大学	大学院応用データサイエンス 学位プログラム事務室	チームリーダー	北村 好一
中央大学	AI・データサイエンスセン ター	事務長	石倉 孝一
	〃	事務室担当課長	今井 文明
データサイエンス共同 利用基盤施設	社会データ構造化センター	准教授	前田 忠彦
	〃	特任教授	赤穂 昭太郎
東京大学	数理・情報教育研究センター	センター長・教授	駒木 文保
東京大学	大学院経済学研究科	教授	大森 裕浩
東京理科大学	データサイエンスセンター	副センター長	瀬尾 隆
	〃	副センター長	村田 貴司
同志社大学	文化情報学部事務室	室員	若城 智浩
長崎大学	情報データ科学部	学部長・教授	西井 龍映
	〃	教授	植木 優夫
名古屋市立大学	大学院看護学研究科	教授	樋口 倫代
名古屋大学	大学院医学系研究科	教授	八谷 寛
一橋大学	ソーシャル・データサイエ ンス教育研究推進センター	センター長・教授	渡部 敏明
兵庫県立大学	社会情報科学部・社会情報科 学科	副学部長・教授	笹嶋 宗彦
広島大学	高等教育研究開発センター	副センター長、准教授	村澤 昌崇

広島大学	高等教育研究開発センター	職員	戸田 由加
北海道大学	大学院保健科学研究院	准教授	杉森 博行
立正大学	データサイエンス学部	教授	西崎 文平
	〃	教授	伊藤 善夫
	データサイエンス学部事務室	事務長	水上 剛
早稲田大学	データ科学センター	教授	野村 亮

※ 国立極地研究所、総合研究大学院大学及び東京医科歯科大学は、都合により欠席

【協力機関】

東京学芸大学	先端教育推進課	課長	清水 研司
広島大学	大学院人間社会科学研究所	特任学術研究員	樊 怡舟

※ 一般財団法人 統計質保証推進協会は、都合により欠席

【中核機関】

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構		機構長	喜連川 優
	統計数理研究所	所長	椿 広計
	〃	副所長	川崎 能典
	〃	副所長	南 和宏
	〃	副所長	山下 智志
	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター	センター長	千野 雅人
	統計数理研究所 大学統計教員育 成センター	統括部長	澤村 保則
	〃	研修部長・研修 主幹・シニア教 員・特任教授	中西 寛子

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育	教育システム開 発主幹・シニア 教員・特任教授	水田 正弘
	"		シニア教員・特 任教授	岩崎 学
	"		シニア教員・特 任教授	折笠 秀樹
	"		シニア教員・特 任教授	国友 直人
	"		シニア教員・特 任教授	清水 邦夫
	"		シニア教員・特 任教授	神保 雅一
	"		シニア教員・特 任教授	三輪 哲久
	"		特任教授	神谷 直樹
	立川共通事務部		統数研事務課 副課長(兼)統数 研係長	橋本 渉
	"		総務課係長	笠川 勇将
	"		研究推進課研究 推進係長	昨間 勲
	"		統計数理研究所 運営企画本部係 員	木下 聡子
	"		統数研事務課課 員	近藤 彩奈
【会員以外の参加者】 文部科学省研究振興局参 事官(情報担当)	学術基盤整備室		室長	藤澤 亘
	"		補佐	吉田 雄介
	"		係長	西田 洋輔
	"		係員	木村 由希子